

**函館市地域支えあい推進協議体 平成28年度 第3回会議
会議概要**

■ **日 時**

平成28年10月24日（月） 18時30分～20時15分

■ **場 所**

函館市役所8階 第1会議室

■ **議 事**

報告

- (1) 第2層生活支援コーディネーター業務の委託について
- (2) 新しい介護予防・日常生活支援総合事業の実施（案）について

議事

- (1) 今後のくらしのサポーター養成研修の進め方について
- (2) 第1層・第2層が連携した業務の進め方について

■ **配付資料**

- ・ 会議次第
- ・ 資料1 第2層生活支援コーディネーター業務の委託について
- ・ 資料2 新しい介護予防・日常生活支援総合事業の実施（案）について
- ・ 資料3 今後のくらしのサポーター養成研修の進め方について
- ・ 資料4 第1層・第2層が連携した業務の進め方について
- ・ 資料5 次回スケジュール確認票

■ **出席委員（11名）**

池田委員，所委員，渡邊委員，佐々木委員，川口委員，酒井委員，阿知波委員，永澤委員，能川委員，林委員，丸藤委員

■ **傍 聴 なし**

■ **報道機関 1名**

■ **市職員**

高齢福祉課 佐藤課長，黒田主査，岩島主査，塚本主査，加藤主査，相澤主査，古口主任技師，田畑主任主事

■ 会議要旨

1 開 会

2 報 告

(1) 第2層生活支援コーディネーター業務の委託について

池田会長

報告(1)「第2層生活支援コーディネーター業務の委託について」、市から説明願いたい。

相澤主査

(資料1「第2層生活支援コーディネーター業務の委託について」に基づき説明)

※説明要旨

- ・ 本件については協議体開催前の9月に、各委員および全ての地域包括支援センターの運営法人に説明し、理解をいただいて、10月1日付で委託契約を締結した。
- ・ 第2層生活支援コーディネーター業務は各センターが担うこととする。
- ・ 第2層協議体の運営・開催にあたっては地域ケア会議を活用することも可能とする。

池田会長

事務局から説明があったが、渡邊委員何か意見はあるか。

渡邊委員

市と内容を詰めた結果なので、特にない。

池田会長

丸藤委員何か意見はあるか。

丸藤委員

包括のこれまで果たしてきた役割や実績を踏まえれば、円滑に業務ができる体制にすることが、一番地域のためになると思うので、市と包括が協議した結果ということであれば良いと思う。

池田会長

それでは他に意見も無いようなので、市には説明のあったとおりに進めてほしい。
次に報告(2)「新しい介護予防・日常生活支援総合事業の実施(案)について」、市から説明願いたい。

相澤主査

従前から何度か総合事業の実施方針について協議してきたものをベースに、サービス内容を庁内の関係部局と調整し、一定の理解が得られたところである。

なお、この資料は先日市議会の民生常任委員会に配付・報告したほか市のホー

ムページでも公開し、市内の全介護事業所へ公開した旨連絡している。
資料については課長の佐藤から説明する。

佐藤課長

(資料2「新しい介護予防・日常生活支援総合事業の実施(案)について」に基づき説明)

池田会長

今の説明について、何か質問はあるか。

川口委員

国の財政が厳しくなったので、互助を進めようとしているものと認識している。
丸藤委員にお尋ねしたいが、前回いただいたさわやか福祉財団の堀田氏、医療経済研究機構の服部氏の著書によると、国はB型を進めていくような姿勢であるが、そのような認識でよろしいか。

丸藤委員

目指す像としては、できるだけB型にしていくことが大きな目標となる。A型であれば制度をつくれれば比較的实施しやすいが、地域住民の気持ちや地域の雰囲気というものが関わってくるB型は、制度をつくるからすぐやりましょうとはならない。

地域住民の気持ちや地域の雰囲気を徐々にB型に傾けるよう時間をかけて制度を構築していかななくてはならない。2025年に思い返した際、総合事業実施当初よりB型が普及していると感じられるよう進めることになる。

川口委員

B型を進めていくうえで、一番動かなければならないのは町会と感じている。
町会にご承知のとおり高齢化の影響もあり、昔より弱体化しているが、B型を進めていくことは、町会の役割をより強固にしていくものと感じている。
A型・C型が先行するとB型の普及が遅くなってしまうと感じ、心配している。

丸藤委員

現状でも弱体化している町会にいきなりB型をやるようお願いしても、反発が出てくると思う。地道な活動によるB型の普及が大切になる。

また、町会が一番の軸になっていくと思うが、町会だけに全てを委ねることはできないと感じており、いろいろな地域資源を活用していくことが大切である。

その意味では生活支援コーディネーターが重要な役割を担うと感じている。

池田委員長

市として補足はあるか。

佐藤課長

B型が理想というのは同じである。しかしながら今の町会の現状を考えると、我々がB型をやってほしいとお願いすることは、町会にとって大きな負担にもなってしまうと感じる。

町会や在宅福祉委員会の機運が自然に高まっていけば、ゆくゆくはB型につながっていくものと考えてはいるが、我々のできることとして、まずは気持ちを持っている人材を育てていくところから始めたい。

川口委員

ほかの自治体ではB型をやっているところがあるのではないかな。

佐藤課長

例えば、訪問のB型をシルバー人材センターにお願いしている自治体はある。シルバー人材センターで活躍しているのは地域の高齢者ということで、その地域の高齢者がサービス提供することから、B型と位置付けているようだが、個人的にはやや違和感がある。実施方法は、地域によりまちまちであり、先行している自治体の状況をみながら検討していきたい。

川口委員

町会は地域の最小単位の組織である。B型に移行する段階で、町会の支援も強化し、関わっていけるようにしてほしい。

佐藤課長

B型が広がっていくのは理想であるが、まずは地域の中で緩やかな支えあいができる体制が整っていけばと考えている。

池田会長

ところで資料の8ページ目に、基準緩和型サービスの従事者養成研修を10～12月に実施すると記載しているが、申し込み状況等はどうなっているか。

相澤主査

申込については、募集を開始してから1週間経過しているが、定員30名のところ4名の応募である。今からPRというのも苦しいが、新聞などで情報を広めていきたい。

池田会長

ここがベースとなる部分なので、頑張ってもらいたい。

佐々木委員

申込者の年齢層はどのようになっているか。どこかの自治体では80歳代の方の申込みがあったと聞いている。

相澤主査

今のところは、そのような年代の方はいない。

池田会長

人を集めるうえで、何か良い知恵はないだろうか。
能川委員、ボランティアの関係で何かないだろうか。

能川委員

ボランティア人材も高齢化が進んでいる。

社会人は仕事もあるため、ほとんど参加はないことを考えると、厳しいのではないかと思う。

池田会長

大妻高校では初任者研修の養成をしている。だが、介護の分野を学んだ者に、限られた分野である生活援助の仕事をしなさいとは言えない。やはり箱物である施設のほうに行ってしまう。各施設は人がいない状態で、例えば法人から求人票がくると、無資格者でも良いという内容になっている。

このようなことから、生活援助については、やはり家庭生活を実際に経験している者がサービス提供者の候補になると思う。

学校に戻ったら、関係者に声をかけてみたい。

相澤主査

明日にはなってしまうが、何らかの手立てを講じたい。その際皆様にご相談させていただく可能性がある。

丸藤委員

締切はいつ頃か。

相澤主査

27日だが人数が少ないので、締切の延長を考えている。

阿知波委員

くらしのサポーター養成研修受講者にも逐次情報提供することとなっていたので、間に合えば情報提供したい。

佐々木委員

平成29年度から、介護認定が随時更新していくと思うが、更新後に総合事業のC型サービスに移行するか、現行相当の国基準のサービスを続けるかは、その都度確認していくのか。

相澤主査

そのとおりだが、現在の介護予防通所介護を利用している方が、総合事業の短期集中のC型に移行することは非常に少ないものと考えている。

池田会長

それでは他に意見も無いようなので、市は説明のあったとおり進めてほしい。

次に議事(1)「今後のくらしのサポーター養成研修の進め方について」、市から説明願いたい。

相澤主査

(資料3「今後のくらしのサポーター養成研修の進め方について」に基づき説明)

※説明要旨

- ・ 全5回に渡り研修を実施し、申込者数44名のうち修了者は36名であった。
- ・ 今後もこの養成研修を通じて、高齢者の生活支援・介護予防の活動に取り組む方々を徐々に増やしていき、既にそのような取り組みを行っている団体に入ることによって活動が活性化するとか、養成された方々が主になって活動を始める、といったことにつなげたい。
- ・ マッチングやフォローについては、社協で今年度想定していない業務であるため、暫定という言葉を入れている。来年度以降これをどうするかは、近々、市と社協で協議する予定である。
- ・ 実際に始めてみて反省点や気付いた点があったため、次回の実施に向け、意見を伺いたい。

池田会長

この件について意見等あるか。

阿知波委員

委員の皆様が協力いただき、無事終了することができた。御礼申し上げます。

くらしのサポーターの登録者については、現在のところ9名である。総合事業のサービスであるB型や第2層協議体の動向を見ながら登録を考えたいという方も多くいた。また、一点報告だが、グループ討議した際の1班より、サロン活動の立ち上げをしてみたいという相談を受けている。

池田会長

成果が出てきている。丸藤委員何かあるか。

丸藤委員

欠席者が少なかったのが良かった。皆モチベーションが高い。それを維持してほしいので、フォローアップの研修を行いたい。

12月17日に服部氏に講演いただくフォーラムの開催を予定しているので、このようなイベントへの参加も促したい。

協議体の皆様に協力いただきて作り上げた研修なので、素晴らしい内容になっていると感じる。

池田会長

他地域でフォローアップ研修を実施している地域はあるのか。

丸藤委員

他の地域で、何かの後にやっている場合はある。座学よりワークショップ的なものが多く、自分たちで何ができるかを明確にするようなことを行っている。

池田会長

講師を務めた渡邊委員どうであったか。

渡邊委員

サポーターになっていただく前提で講義を行ったが、反応が良かった。1名でも多くの方に登録していただきたい。

また、ボランティアポイント事業でも活躍できるよう、カリキュラムを再検討したほうが良い。

池田会長

同じく、講師を務めた永澤委員どうであったか。

永澤委員

ボランティアポイント事業で活躍している方が、訪問型サービスAに流れるようにしたほうが良い。ボランティアポイント事業の養成講座を受けた方が、実際の活躍の場が無いという話を聞く。

また、くらしのサポーター養成研修について、36名修了者がいるが、私を含めた残り8名が修了できていない。外せない用があり休まれた方は、次いつ研修が開催されるのか気になっていると思う。

サロンの立ち上げを目指している修了者からは、くらしのサポーターとしてではなく、町会・民生委員としてサロン活動をしたいと聞いている。

くらしのサポーター養成研修を修了すると、就職できると勘違いしていた方もいたので、詳しく説明を行ったほうが良い。

池田会長

初めの広報に少し問題があった。

永澤委員

そう思う。また、くらしのサポーター養成研修を修了した方が、ボランティアポイントの研修も兼ねることができるよう、カリキュラムを検討したほうが良い。

池田会長

私は正直半分くらいしか修了しないと思っていた。1回出られなかった方は、次回参加した際、修了証を出すことは決まっているが、次回はいつ実施予定か。

相澤主査

当初は1クール3か月で年4回の実施を考えていたが、実際やってみると大変だった。我々もスケジュールが厳しいので、1月下旬から3月頃の実施を考えている。その際は各委員の皆様にご協力をお願いしたい。

能川委員

36名の修了者のうち、数名の方から、個人の家を訪問してボランティアに行くことと誤解していたため、くらしのサポーターとして登録しなかったと話を伺った。その辺の説明を詳しくしたほうが良い。

また、その方々は、ヘルパー業務は大変というイメージも持っていたようだ。

酒井副会長

ヘルパー連協で、生活援助の在り方という講義をさせていただいたが、介護保険制度の中で業務を行っているという話をさせていただいた。

最後に、丸藤委員から「ヘルパーができない部分は、全て皆さんがやってください」という意味合いの発言があったのが気になった。

丸藤委員

あの時は、「全部やってください」ではなく、「法的な規制が無いので、自分たちのできることは、何でもできるんですよ」という意味合いでお話したのだが。

酒井副会長

申し訳ないが、私は「皆さんがやらなければならない」と解釈してしまった。参加された方にも、そのように感じてしまった方がいるのではないかと思う。

池田会長

それが能川委員の意見につながっているようだ。

他に意見はあるか。

無ければ、論点のとおり研修を組み立て直すこととし、丸藤委員、阿知波委員、市で協議し進めていくということで良いか。

丸藤委員

皆さんの話を聞き、やはりフォローアップは必要と感じた。いただいた意見を参考に、フォローアップ研修の内容を考えたい。

阿知波委員

今後の活動に関する説明時間が短かったので、随時修了者の方へ情報提供していきたい。

池田会長

1回目からうまくいくことはない。反省を踏まえ良くしていけばと思う。

それでは次に議事（2）「第1層・第2層が連携した業務の進め方について」、市から説明願いたい。

相澤主査

(資料4「第1層・第2層が連携した業務の進め方について」に基づき説明)

池田会長

渡邊委員，地域包括支援センターとしてどうか。

渡邊委員

意見を求められていた部分については協力させていただいた。

地域課題として想定されるのは、主に集いの場となると思う。包括でやっている以外では、社協のサロンなどの社会資源が挙げられるので、活用していきたい。その際は市や各委員のネットワークをお借りしたい。

池田会長

実際やってみないと分からないので、いろいろやっていく中で調整していきたい。丸藤委員は10圏域に参加するのか。

丸藤委員

地域ケア会議等, 可能な限り参加していきたいので, 声をかけていただきたい。

池田会長

川口委員何かあるか。

川口委員

なんとなく聞いていて, 整理できたと思っているが, 資料4では互助が大きくクローズアップされているが, B型ではないかと思っているがいかがか。

相澤主査

制度が複雑で分かりにくい, 生活支援体制整備事業は総合事業のB型をつくるためのものではない。確かに国のガイドラインでは総合事業の実施においては, 生活支援体制整備事業を活用することが望ましいとされているが, 本来の目的は, B型やその他のサービスの枠組みにこだわらず, 広く高齢者の日常生活上の支援体制の充実, 社会参加を推進することである。

川口委員

なるべく理解できるよう頑張りたい。

来年の4月から総合事業が始まるので, 戸井の包括や, 社協, 支所の福祉課, 町内会が集まり話し合いを行わなければならないと思うが, そのような機会が設けられていない。間に合うのだろうか。

佐藤課長

具体的に会議を開催するのは, 来年になるだろう。年内はどのような人に集まっていたか等を検討する準備期間と考えており, 順を追ってやっていきたいと思う。

池田会長

走りながら考えていき, 疑問点があればその都度考えていくということでのよろしいか。

特に意見も無いようなので, そのようにやっていくことでお願いしたい。

これで議事がすべて終了したが, 各委員から何か無いか。

特に無いようなので, 進行を市にお返しする。

田畑主事

これをもって, 函館市地域支えあい推進協議体の平成28年度第3回会議を終了する。